

生活リハビリテーションセンターだより

新春交流会 (第3回学習懇談会)

1月19日(金) 毎年恒例の新春交流会を行いました。年が明けてから寒さの厳しい日が続いていましたが、当日はお天気にも恵まれ、暖かい日差しの下でお餅つきを楽しむことができました。「去年はフラフラしてちゃんとつけなかつたけれど、今年はしっかりと力を入れてつくことができた。訓練の成果を実感できた。」という、うれしい声も聞かれました。



お餅つきの後は、当事者様は2グループに分かれての座談会、ご家族は家族懇談会を行いました。座談会ではいろいろなテーマについて日ごろの思いを話しあい、「10年後の自分」というテーマではそれぞれが思いをはせながら、目標や希望を熱く語っておられました。また、家族懇談会では、はばたきの会のご家族が、発症から障害の受容を経て現在に至るまでの紆余曲折をお話しくださり、みなさん大きく頷きながら聞き入っておられました。そして「ストレス解消法」というテーマでは、それぞれに違った解消法をお持ちでしたが、最終的には「(当事者様に) 笑顔で接することが出来るように」という同じ思いがあるのだなあ、と改めてご家族の愛情の深さを感じました。



午後は体育室でポッチャ大会が行われました。ポッチャはパラリンピックの正式種目になっており、今、2020年東京大会に向けて日本中で盛り上がっている競技です。まずは2グループに分かれての総当たり戦。応援の声と笑い声が飛び交う中競技は進行し、予想通り上手な方、意外とすごい方、いつもの訓練では見られないような表情をたくさん見ることができました。決勝戦では接戦で見ごたえのある試合が繰り広げられ、全員が最後まで盛り上がり応援していました。



そして最後は、訓練を卒業し就労された方に、体験談をお話いただきました。発症時の様子や生活リハの訓練利用に至るまでの経過、訓練を開始した当初は「こんなところには来たくない!」と思ってい



たこと、訓練の中での辛かったことや他のご利用者の行動を見て気付かされたことがあった、というお話もありました。また、

そんな中で担当職員との意見の衝突もありながらも、信頼関係を徐々に築いていかれたことなどを赤裸々に語っていただきました。訓練を終了しお仕事に戻られてからも、まだまだ思うようにいかないこともあるとのことでしたが、先輩の体験談にみなさん真剣に聞き入っておられました。訓練が始まったばかりの方、もうすぐ卒業の方、復職に向けて頑張っておられる方、それぞれの段階で悩み事は尽きることはありませんが、一歩ずつ前に進んでいることを感じていただけたのではないのでしょうか。

当事者様、ご家族、OBの皆様など、総勢約40名が参加し、活気あふれる楽しい1日でした。

平成29年度 第2回運営委員会

2月19日(月)平成29年度第2回運営委員会を開催しました。

平成29年度の運営実績の報告と、平成30年度の運営目標、さらに4月からの報酬改定に向けての運営方針について、運営委員の皆さまより貴重なご意見をいただきました。「就労定着支援」や介護保険における「共生型サービス」の新設もあり、他機関とのますますの連携の重要性について改めて確認しました。

また、訓練のご利用終了時に協力をお願いしている「満足度アンケート」の結果についても報告を行いました。

評価いただいている点については、引き続き維持・向上をめざし、満足度の低い項目については、改善方法について、運営委員の皆さまからいろいろな助言をいただきました。下に29年度(2月末時点)のアンケート結果を掲載いたします。今後も忌憚のないご意見をいただき、さらなるサービスの向上をめざしたいと思います。



利用者アンケート結果

1) アンケート回収率 61.8% 回収21名/退所者34名

2) アンケート設問

問1: 利用者の状況に合わせた訓練活動が行われている

問2: 地域生活における社会性(生活技能)を身につけられるような活動が行われている

問3: 利用者や家族が地域生活の方法として参考になるようなプログラムになっている

問4: 他の人に知られたくないことのお守りなど、プライバシーが守られている

問5: 緊急時(災害・病気・けが)への対応は迅速で、適切である

問6: 職員は、利用者・家族に丁寧に対応している

問7: (利用者は)生活リハビリテーションセンターに行くことを楽しみにしている

問8: 環境整備など利用者の安全に配慮した訓練が行われている

問9: 利用者の意欲を促すような訓練プログラム・訓練器具が用意されている

問10: 利用者・家族に関する気付きや悩みなどについて、職員に気軽に相談できる

問11: 訓練終了後の進路やリハビリテーションに関する事等、必要に応じて情報提供・説明がある

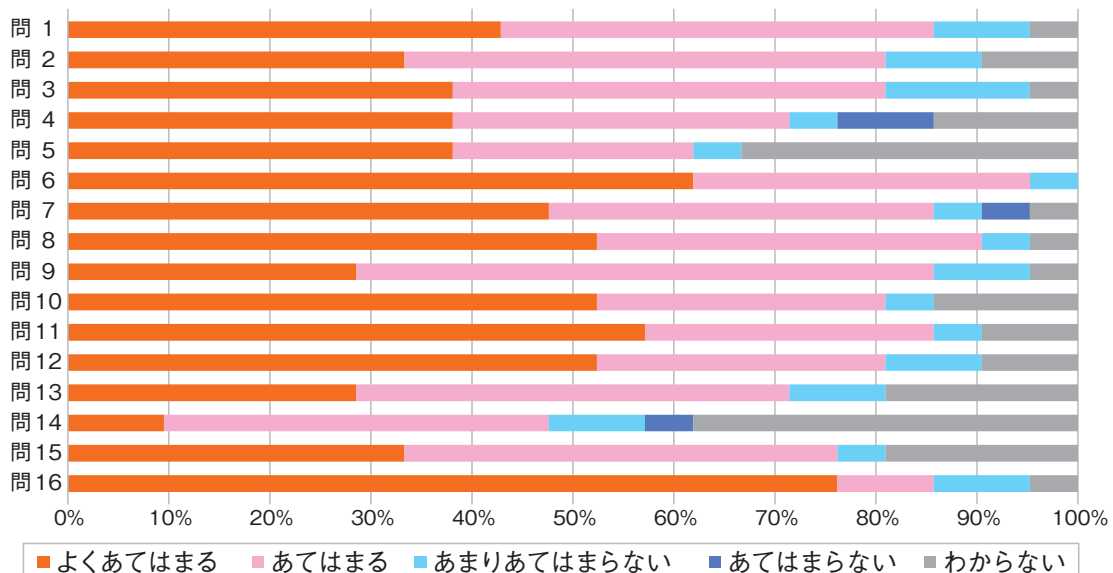
問12: 障害への対応や訓練終了後の進路を考えると、職員は適切な情報を提供し、また親身になって相談にのってくれる

問13: 家族の精神面を支えるようなサポートがある(相談・共感・情報提供等)

問14: 当事者・家族同士の交流の機会が十分ある

問15: 職員は不満や要望に対しきちんと対応している

問16: 生活リハビリテーションセンターのサービスを利用したことに満足している



妻たちの会 (第4回学習懇談会)



3月4日(日)
平成29年度第4
回学習懇談会を
実施しました。
今回は「妻たち
の会」と題し、
現役とはばたき
の会の当事者様

の妻のみなさまにお集まりいただきました。

当日は11名がご参加くださり、涙あり、笑いありのあ
っという間の2時間でしたが、同じ立場だからこそ分か
り合えることがたくさんあったご様子でした。

当事者様はもちろんのこと、ご家族も突然の病気や
事故によって生活が一変してしまい、それを受け入れ
られるまでに長い時間がかかったこと、その中で周囲に
理解してもらえなかったことや自分自身を責めてしまっ
たことなど、それぞれにお話しくささいました。

印象に残ったのは、「退院してから初めて、高次脳機
能障害の本当の大変さを実感した」ということと「大変
なことたくさんあるけれど、やっぱり(主人が)い
てくれないと寂しい」と皆さま感じておられること
でした。これから先の不安も、もちろんまだまだあるこ
とと思います。また、このような機会をもって、少しで
も気持ちをわかり合える場となれば良いと感じまし
た。毎月第2金曜日の家族懇談会にも、ぜひご参加く
ださい。



研修会報告

平成29年度 堺市高次脳機能障害及びその関連障害に対する支援普及事業 第4回研修会

脳血管疾患後遺障害のためのケアプランについて ～介護保険と障害福祉サービスの連携～

1月31日(水) 健康福祉プラザ3階大研修室において、
今年度最後の支援普及事業研修会を開催しました。

今回は、介護保険の第2号被保険者に対する支援の
ための、介護保険と障害福祉サービスの連携をテーマ
に、主に居宅介護支援事業所のケアマネージャー向け
の内容で実施し、32名の方に参加いただきました。

第1部では、当センター支援コーディネーターの正田
晃一より「高次脳機能障害によって起こりうる日常生
活での課題」を解説しました。続いて、堺市障害福祉部
障害者支援課の佐藤隆久係長より、「障害福祉制度」
についてお話しいただきました。障害者総合支援法に
おけるサービス内容や、利用までの流れ、介護保険サ
ービスとの違いなどについて、わかりやすく丁寧な説明
で、みなさん資料を見ながら熱心にメモを取っておられ
ました。

第2部では、社会医療法人ペガサス、ペガサスケアプ
ランセンター管理者で主任介護支援専門員の河内良祐
様に、実際に介護保険サービスと生活リハビリテーシ
ョンセンターの自立訓練を利用しながら支援を行った事
例についてご紹介いただきました。後半にはグループワ
ークを行い、支援の目標や、目標達成のために利用で

きる社会資源についての意
見交換を行いました。

より良い支援を行ってい
くために、高齢や障害とい
った垣根を超えた連携が不
可欠であることを改めて確
認し、今年度最後の支援普
及事業を終了しました。

来年度も多職種連携支援
のさらなる充実に向けて、支援普及事業研修会を開催
してまいります。



ペガサスケアプランセンター
管理者 河内 良祐氏





生活リハビリテーションセンターでは、健康福祉プラザ屋上ふれあいガーデンにて花や野菜を育成・栽培する園芸活動を行っております。注意や記憶などの認知機能向上、集団内で適切に行動する、自発性を向上する、ストレスの緩和、自己肯定感を高める、などを目的として活動しています。この一年間の活動内容をご紹介します。



春 イチゴもたくさん実り、利用者様は収穫場所を譲り合いながら真っ赤なイチゴを収穫しておられました。そして、ジャガイモも収穫しまし



た。皆様、和気あいあいと収穫を楽しんでおり、総重量12kgの大収穫となりました。調理訓練でポテトサラダを作り、昼食時に皆様に召し上がっていただきました。育成、収穫、調理と大成功に終わり、大満足の結果となりました。

秋 冬野菜の準備を始めました。育苗箱に白菜とキャベツの種を撒くと、2日後にはたくさん芽吹き、間引き・育成後1つずつポットへ移し、苗作りをしました。また、畑の土を再利用するために「ローターシーブ」という根っこや小石を取り除いてくれる土をふるう道具を導入しました。これが非常に体力を必要とする作業で、利用者様同士が「〇〇さん、疲れたでしょ？変わりますよ」と助け合いながら作業をしていました。



夏 トマト、ミニトマト、茄子、キュウリ、甜瓜(まくわうり)、ピーマン、黒枝豆を収穫しました。色鮮やかなさまざまな夏野菜をカゴいっぱい収穫し、「暑い中、汗水たらして園芸活動を行った甲斐がある」という感想をいただきました。そして、収穫したピーマンとトマトを使用し、オムライスとコンソメスープを調理訓練で作りました。ピーマンの苦みやトマトの酸味が美味しく感じたのは、自分たちで育てている野菜だからでしょうか。



冬 レイズドベッドにてパンジー、ビオラ、アリッサム、チューリップなど春のお花を植えました。苗を植える際、麻痺により両手での作業が難しい利用者様には他の利用者様がお手伝いをしながら、協力して作業をされていました。集団内での些細な気遣いなどは園芸活動の1つの特徴なのではないかと思います。そして、プランターで育てた小松菜の収穫し、利用者様にお持ち帰りいただきました。調理方法は様々でしたが、「葉が柔らかく、香りがあった美味しくかった」という感想をいただきました。土づくりから始めた野菜を調理して食べる、という長期間に渡る作業は、達成感を感じることができた作業ではないかと思います。



今後も当センターでは利用者様に合わせた園芸活動を行ってまいります。

堺市立健康福祉プラザ 生活リハビリテーションセンター

〒590-0808 堺市堺区旭ヶ丘中町4丁3番1号 堺市立健康福祉プラザ内 4F

TEL.072-275-5019 FAX.072-243-0202

■開館時間 9:00~17:30 ■休館日 土・日・祝日・年末年始(12/29~1/3)

<http://www.sakai-kfp.info/>